

# 5

## 外国語活動・外国語科（英語）

### 外国語活動・外国語科（英語）における学習過程の例

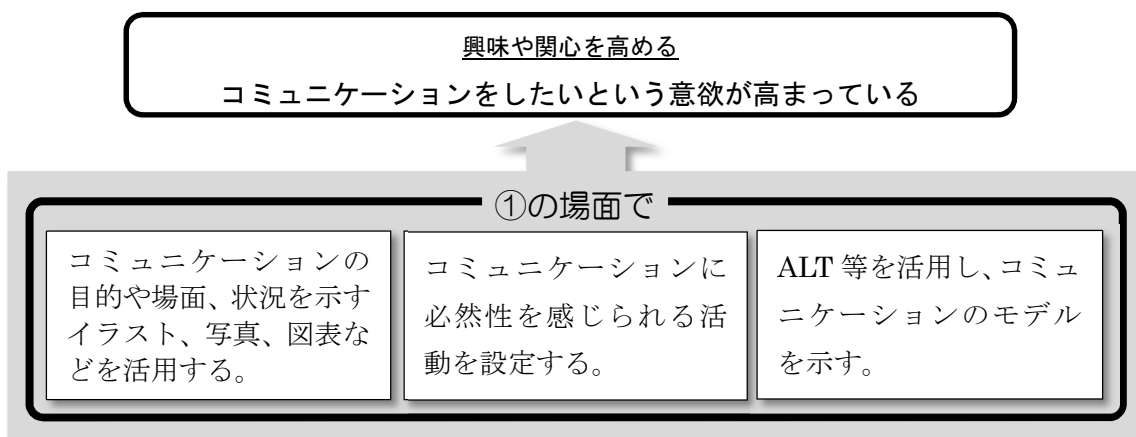
小学校学習指導要領解説外国語活動編及び外国語編、中学校学習指導要領解説外国語編（平成29年7月）において、外国語教育の学習過程は次のように示されている。

- ①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する
- ②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる
- ③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う
- ④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う

ここでは、上記の①②③④の場面において、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」それぞれが実現できた子どもの姿とその姿に結び付く教師の手立てを例示する。なお、図の下の◆には、小学校段階における手立て及び留意点も含まれている。

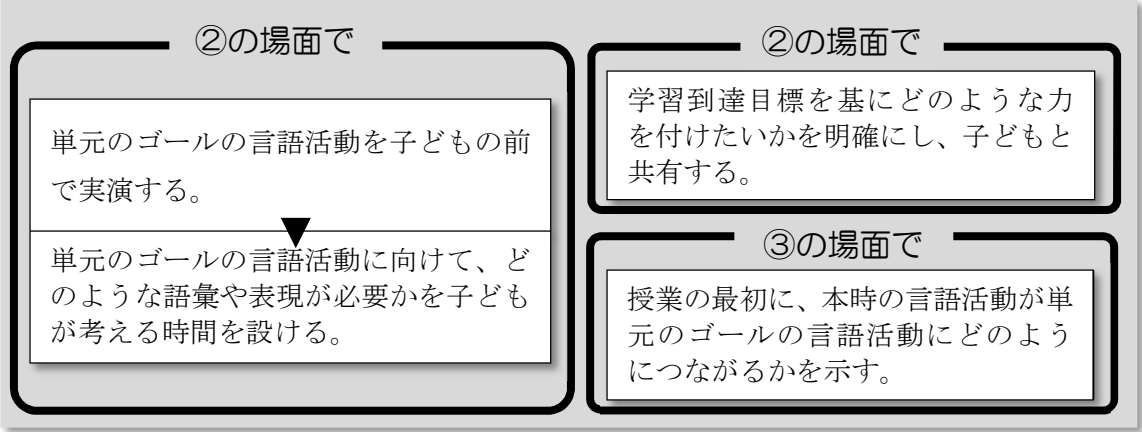
### 「主体的な学び」を実現するために

外国語活動・外国語科（英語）において、「主体的な学び」を実現するためには、例えば次のような子どもの姿が見られるように、教師が手立てを講じる必要がある。



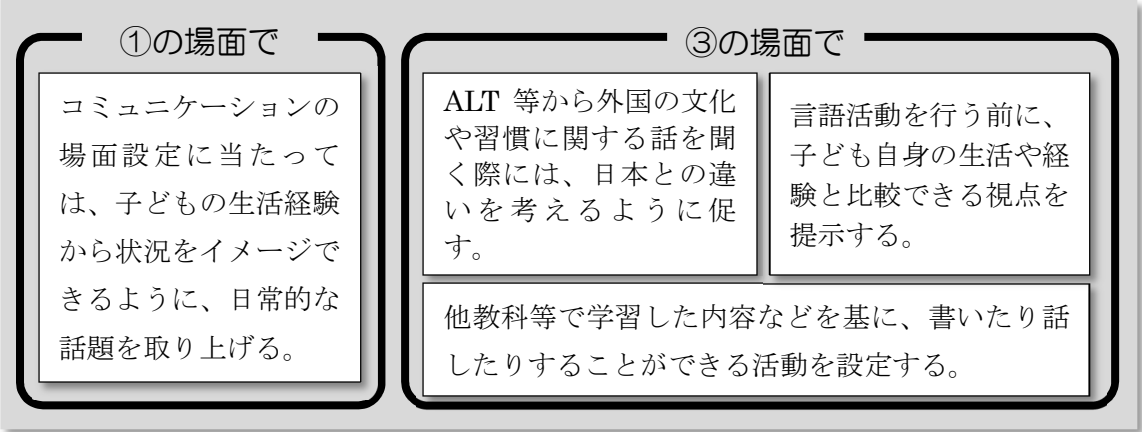
- ◆ イラスト、写真、図表を掲示する他に、ICT機器を活用することで、子どもの興味・関心を高めさせたり、目的や場面状況の理解を深めさせたりすることができる。
- ◆ 発達の段階に応じて、子どもが興味のある人物や題材を事前に把握し、それらを話題として取り上げることも効果的である。

見通しをもつ  
単元のゴールの言語活動を理解し、それを意識しながら各時間の言語活動に取り組んでいる



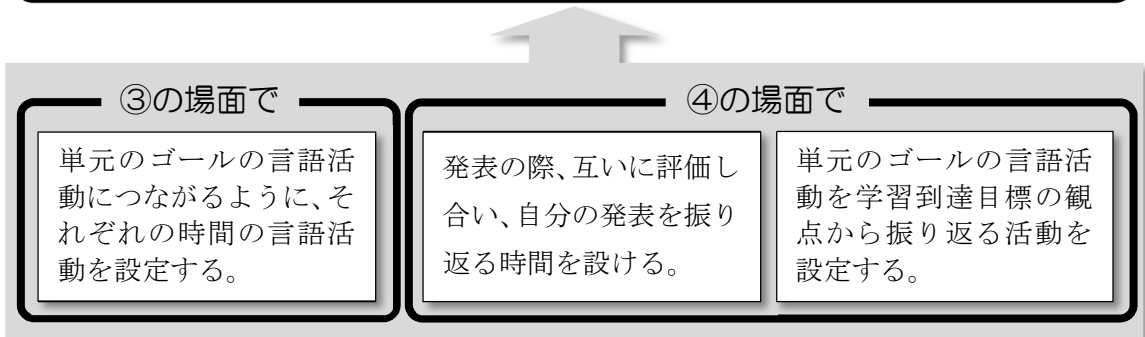
- ◆ どのような語彙や表現が必要かを考えさせる際には、必要に応じて子どもが考えやすくなるようにヒントを与える。
- ◆ 小学校段階では、子どもがどのような語彙や表現が必要かを考えることが困難な場合もあるため、単元の流れを掲示物で示しておくことで、必要な語彙や表現を想起させることも重要である。

自分と結び付ける  
自分の生活や経験したことと結び付けている



- ◆ 言語活動の題材を取り上げる際には、他教科等でこれまで学んだことや現在学んでいることを積極的に活用することが大切である。例えば、小学校段階では、理科で学習した「昆虫」を題材として取り上げ、昆虫の体の部位の数を尋ねるコミュニケーション活動を行うことなどが考えられる。
- ◆ 場面設定に当たっては、例えば、公共施設、公共交通機関、商業施設におけるアナウンスなどを取り上げる。

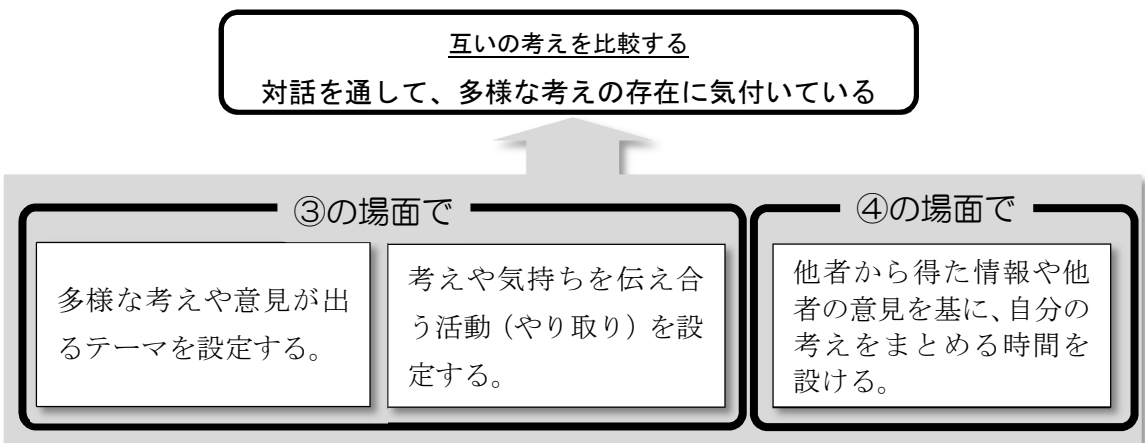
振り返って次につなげる  
単元のゴールの言語活動を振り返って、できるようになったことを自覚したり、次にできるようになりたいことを考えたりしている



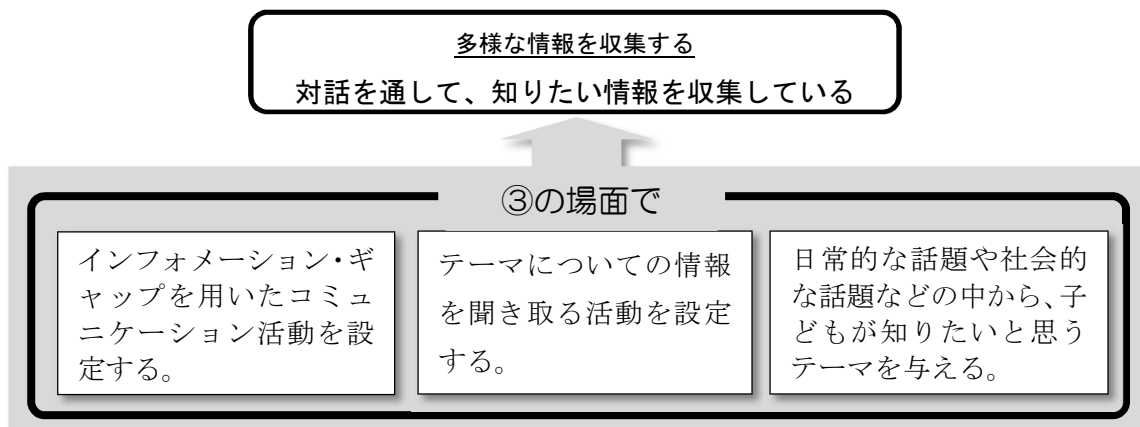
- ◆ 分かったことや新たに発見した気づきを教師と子どもで共有することで、次につなげることができる。
- ◆ ④の場面の最後に、発表の内容や構成、表現などについてよくできていた点を賞賛するとともに、具体的な助言を与えるなどして、子ども自身が新たな課題を把握できるようにすることが大切である。

**「対話的な学び」を実現するために**

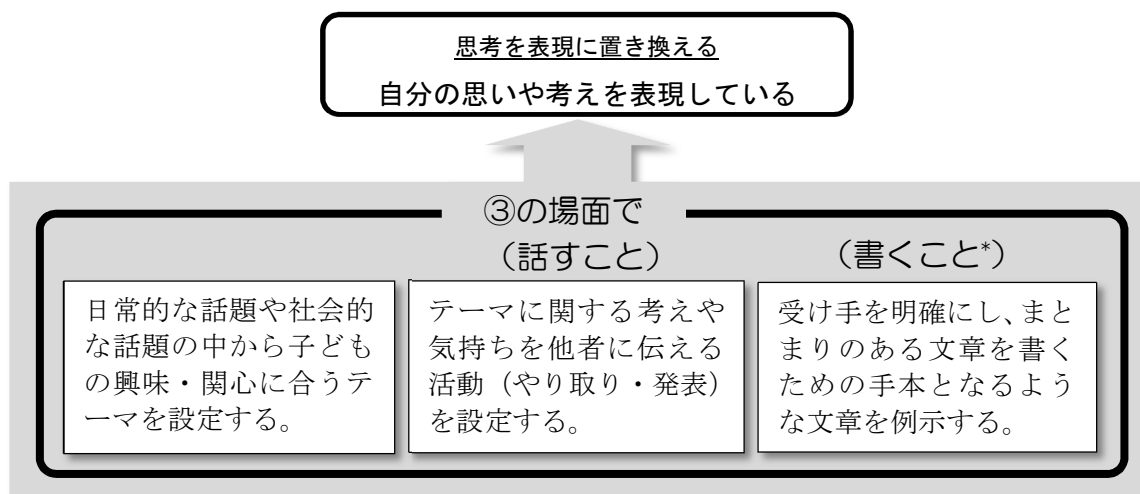
外国語活動・外国語科（英語）において、「対話的な学び」を実現するためには、例えば次のような子どもの姿が見られるように、教師が手立てを講じる必要がある。



- ◆ 他者との対話において、聞き手が相づちを打ったり自分の意見を付け加えたりすることで、話し手は聞き手に伝わっていることを実感したり、聞き手の意見を確認したりしながら話すことができる。
- ◆ ④の場面では、他者から得た情報や他者の意見を整理して自分の考えをまとめさせることが大切である。



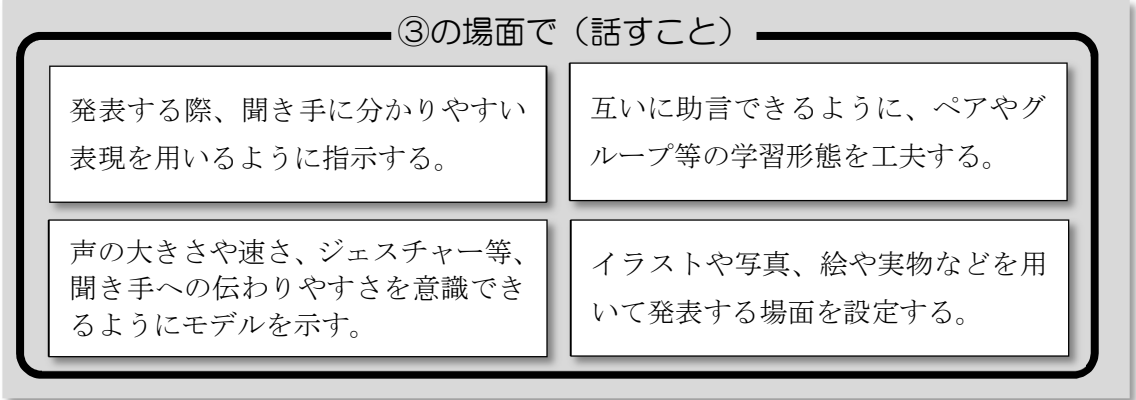
- ◆ インフォメーション・ギャップとは、話し手と聞き手の間にある情報の差のことである。小・中学校段階では、例えば、二人に一枚ずつ別々の絵を持たせて、互いに相手の絵が見えない状況をつくり、対話を通して情報交換を行うという活動がある。
- ◆ 子どもが会話をする際、多くの友達と話せるようにルールを決めておく。例えば、話す人数を決めておく、男女交互に質問するなどのルールが考えられる。
- ◆ テーマの難易度や子どもの実態に応じて、ペアやグループで一つのテーマについて情報収集を行うなど、学習形態を工夫する必要がある。
- ◆ 小学校段階においては、日常生活に関する身近で簡単な事柄の中からテーマを設定する。



- ◆ 小学校段階の「話すこと」では、日常生活に関する身近で簡単な事柄の中からテーマを設定する。
- ◆ 中・高等学校段階では、「話すこと [発表]」において、「内容を整理して話す」ことに加えて、「即興で話す」ことも求められる。
- ◆ 筋道が通った文章とするために、「導入ー本論ー結論」や「主題ー根拠や具体ー主題の言い換えや要約」など、文章構成にも留意する。
- ◆ 子どもに書かせる際、「話す活動→書く活動」の流れを大切にしながら取り組ませることが肝要である。

\* 小学校外国語活動では、「書くこと」は扱わない。

**多様な手段で説明する**  
聞き手に効果的に伝えるための工夫をしている

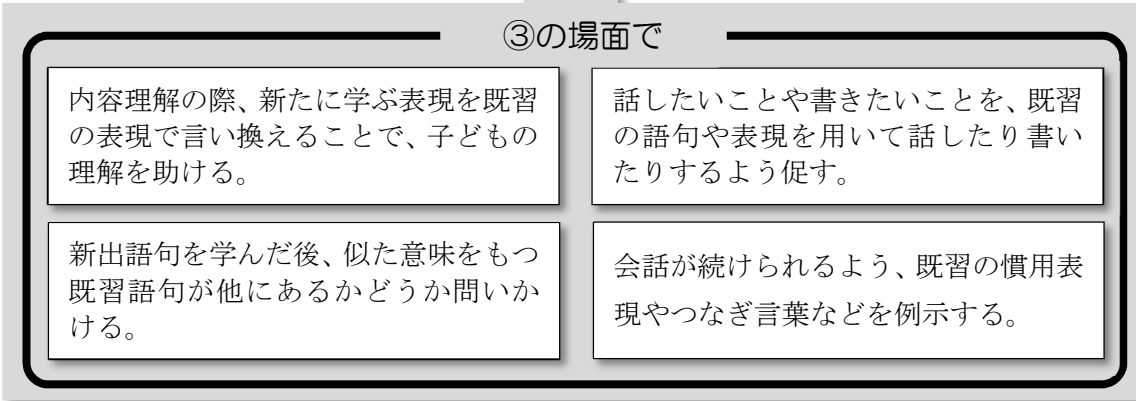


- ◆ 「話すこと」に関しては、「話すこと [やり取り]」と「話すこと [発表]」に分けられるが、それぞれのテーマについては、学校段階に応じて工夫する必要がある。
- ◆ 発表原稿を作成する際、辞書を活用して伝わりやすい表現を探すよう助言することも必要である。
- ◆ ペアやグループで発表の練習をする中で、分かりづらかった表現を確認させる。その後、聞き手に分かりやすい語句や表現を調べたり考えたりして発表内容を再構成させることも大切である。
- ◆ スピーチをする際は、聞き手とのコミュニケーションとするために、アイコンタクト、表情、姿勢、声量、聴衆への内容確認などに留意させる。

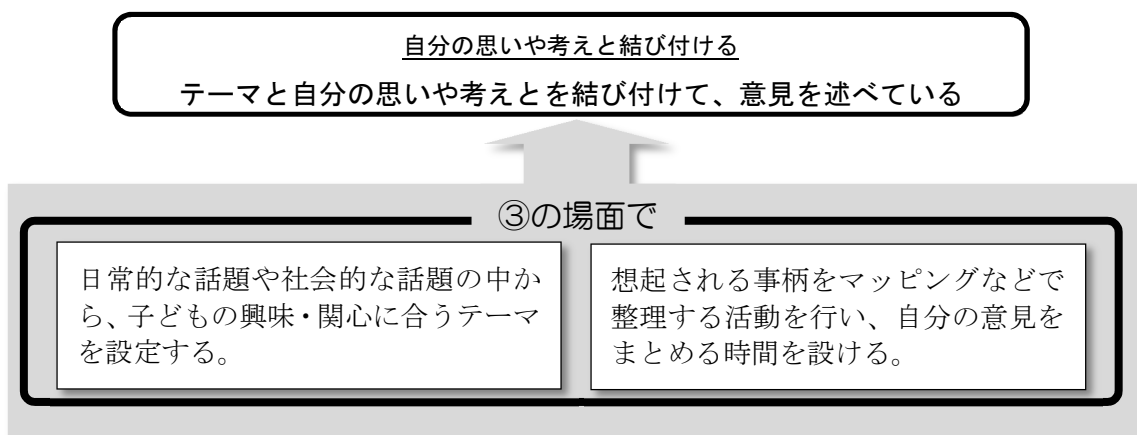
**「深い学び」を実現するために**

外国語活動・外国語科（英語）において、「深い学び」を実現するためには、例えば次のような子どもの姿が見られるように、教師が手立てを講じる必要がある。

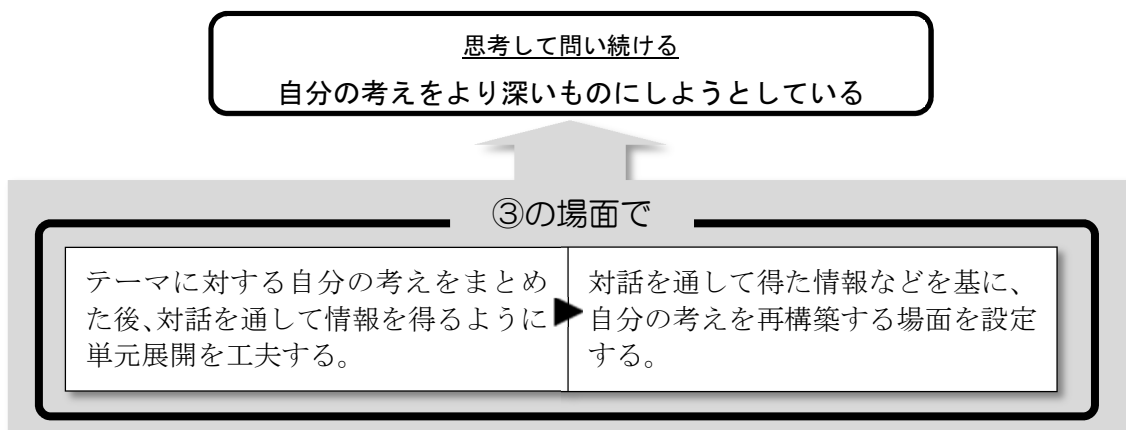
**知識・技能を活用する**  
既習事項を使って表現や理解をしている



- ◆ 新出の語句や文法を学習する際、既習の語句や文法と結び付けて考える時間を確保することが効果的である。



- ◆ 自分の思いや考えをもてるテーマを、学校段階に応じて設定する必要がある。
- ◆ 自分の意見をまとめる際、マッピングに書かれた事柄の羅列にならないようにするために、つなぎ言葉を例示する必要がある。
- ◆ 小学校段階では、日常生活に関する身近で簡単な事柄の中からテーマを設定し、自分の思いや考えを話したり書いたりする場面を多く設定することが大切である。



- ◆ 子どもたちが自分の考えをよりよいものに近づけていくためには、テーマに対して、自分の考えをもつ→対話する→再考するというような学習過程となるように、単元展開を工夫することが考えられる。テーマによっては、再考した後、更に異なる相手と対話することで考えが深まる。
- ◆ 外国語活動・外国語科（英語）においては、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせることが「深い学び」の実現に結び付いていくと考えられる。
- ◆ 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、「外国語で表現し合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」である。